



市議 土山由美子

ドイツを脱原発に導いた物語 「みえない雲」^{2006年制作}を上映します

とき：9月25日(火)

10:00~12:00 「みえない雲」上映と

翻訳者高田ゆみ子さんトーク

ところ：伊勢原市民文化会館 リハーサル室

参加費：無料

原作はドイツの作家グードルン・パウゼヴァングの小説。1986年のチェルノブイリ原発事故をきっかけに書かれた。2006年に映画化。監督はグレゴール・シュニッツラー。

日本では1987年に出版(高田ゆみ子翻訳)、漫画版もある。映画の公開は2006年12月。

映画の主人公を演じた女優パウラ・カレンベルグは、チェルノブイリ原発事故の胎内被爆者で、心臓や肺に欠陥を持っているという。



上映後、

本の表紙▶

翻訳者高田ゆみ子さんのトークがあります

原発は人間と共存できない

映画「みえない雲」は、チェルノブイリの事故の翌年発表された、もしドイツで原発事故が起きたら：という近未来小説を原作としています。国内で原発事故が起こり、一斉に逃げ惑う人々、混乱、被ばくして苦しむ若い人たち……。この小説は、ドイツ児童文学賞を受賞、150万部のベストセラーになり、教材にもなり、脱原発への世論形成の一翼を担いました。

ドイツはチェルノブイリ事故を教訓とする。ぜひご参加ください。

私たちの未来を私たちが選びましょう。ぜひご参加ください。

意識をずっと持ち続けてきましたが、日本では「あれはソ連だから」「日本の原発は絶対安全」として真剣に向き合おうとしませんでした。教科書から原発の危険性の情報を排除し、「わくわく原子カランド」(2010年)などの教材で子どもたちにも安全神話を押し付けてきたのです。

暑い陽射しが照りつけるなか、全国から17万人が集まりました。集会の呼びかけ人(坂本龍一氏、大江健三郎氏、落合恵子氏、瀬戸内寂聴氏など7名)の方々のメッセージに大きな拍手がわき起こりました。集会の後、原宿↓表参道↓青山通りへと行進しながら声をあげてアピールしました。

豊かな自然を放射能で汚染され、仕事を失い、故郷を追われた多くの人々の未来は取り戻せるでしょうか。とりわけ子ども達の健康に今後どんな影響が現れるのか予想もできません。また福島原発の事態は収束しておらず、危険な状況は続いています。地殻変動の活性期に入っており大きな自然災害も多発しているなかで、活断層の真上に建てられた原発が安全とはだれも信じられません。ヒロシマ・ナガサキを経験した私たちが、また再び核の恐ろしさが身に染みた福島原発事故を経て、それでもなお、いのちや健康よりも経済を優先し、利権のために原発再稼働へと突き進むことは決して許せません。

いやなことは、はっきり「いやだ」と声を出しましょう。黙って何も行動しないことは「認める」ことです。そう思った人たちがどんどん集まっています。政治を私たちの手でつくりましょう。(浜田順子)

7月16日
代々木公園を埋め尽くした
17万人の声



今井明氏撮影

「さよなら原発10万人集会」に参加しました



土山由美子 一般質問 6/20

新しい地域防災計画に提案

関東地方においては伊勢原断層帯によるものを含め、9つもの大規模地震の被害想定が発表されています。また近年では、局地的大雨による土砂災害、浸水災害が全国的に発生しています。現在、新しい地域防災計画の策定作業が行われていますが、東日本大震災の経験から学んだことを生かし、新しい状況に対応した計画が必要です。

災害時のたすけあい「災害時要援護者支援制度」の充実を

災害時要援護者支援制度は災害時に自力で避難することが困難な障がい者や高齢者を近隣の人たちが支援する仕組みです。しかし、登録制(本人の要望)であるため、個人情報やプライバシーの問題で、登録者数は伸びていません。助け合いに役立つならば情報を出し合い、全員が避難できるような仕組みを進めるべきと考えます。

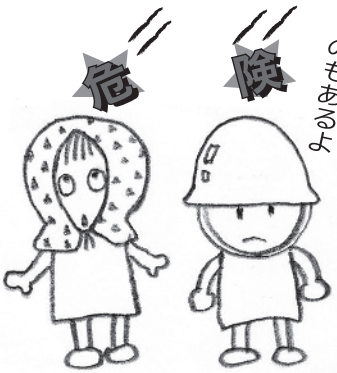
市は登録制度の周知を進めながら、将来的には、平常時から地域の支え合い体制を作ろうと「防災コーディネーター制度」の創設を検討している。市内のいくつかの自治会では、災害時の安否確認として各世帯の人数や、支援の必要性を記入した名簿を備えており、このように隣近所の住民が互いに支援できる体制を構築していく、このこと。

放射線を正しく学んでほしい

関東近辺にも、放射線を扱う事業所や研究所があり、横須賀に入港する原子力空母は、海に浮かぶ原発とも呼ばれています。県の地域防災計画の中には放射線物質に関する教育および知識の普及ということが入っていますが、市の地域防災計画で、より現実的な事故等を想定した対策を入れることを提案しました。

子どもたちの安全 防災ずきんで大丈夫?

ヘルメットでしっかり守りたい!



大地震の想定が厳しくなっているのに、防災ずきんのままで子どもたちの安全対策は充分と言えるでしょうか。ヘルメットの導入を!

市庁舎と学校等公共施設の節電対策を!

東日本大震災での原発事故の経験から、私たち人間の生命を犠牲にしてまでエネルギーを原発に頼るべきではないことは明らかです。特に子どもたちの未来のために、今後、再生可能エネルギーの推進や省エネルギー生活に努め、原発に依存しなくて済むよう、電気使用量を減らしていく必要があります。

本年、伊勢原市は財政難という事情から、東京電力の値上げで厳しい負担が見込まれます。「電気を力エル計画」と名付けて節電や経費節減の方法を紹介する活動を行っている市民団体の取り組みを参考に節電対策を提案しました。

いろいろな方法で楽々節電

市庁舎や学校等公共施設の電気代は、照明とエアコンが大部分を占めています。「LEDは高価なので、その半分以上の価格で節電効果の高いLED蛍光灯の利用が効果的です。旧型照明器具を省エネタイプに一括交換(大量購入で安くなる)を行い、しかもリース方式を導入すれば、さらに費用削減が期待できます。またキャノピースイッチ(ひも)を付ければ器具ごとの消灯ができ、不要な所の付けっ

ばなしを防げます。

空調設備は、15年前の設備と比較すると、電気代は約半分。さらにガスヒートポンプ式なら電気代は10分の1になる、など経費削減効果の方策は数多くあります。

市は小中学校に関しては老朽化により使用不能となった物から順に、節電効果の高い照明に順次変更している。その他もできるだけ積極的に検討を進める、とのこと。

キャノピースイッチの市庁舎1階への導入が実現しました。



いせはらネット通信の配布ボランティア募集

ご自宅の近辺あるいはご希望の場所に50枚程度配っていただけませんか? 年4回発行しています。

編集後記

7/16「よなら原発10万人集会」に私は参加できなかったが一人で出かけていった夫が、すごかったと話してくれた。中央会場から離れた所でもいろいろな話が聞けたとかで、なかでも「私は福島から来た農家のおばさんです。すでに子どもたちには被爆の症状が現れています。現場の事実が伝わっていません」という話や韓国女性のメッセージソングに感動したとのこと。しかし、これだけのものすごい抗議の声に大手新聞やテレビはふさわしい量で伝えなかった。原発をうちだしているはずの新聞社の翌日紙の1面には全く載っていないかった!。マスコミ(一部を除く)は、圧力に屈していると言うよりは、原発を支える巨大な勢力の一角で世論操作に大きな役割を果たしているのだらう。(やうこ)